栃木県中学校長会報

総力を結集して

栃木県中学校長会長
宇都宮市立旭中学校長
巻　島　武　男

教育に対する要請と期待は増大しており，特に次代をになう青少年の健全育成は，現下の重要課題である。本県中学校教育に関しては，新教育課程実施２年目を迎え，人間性豊かな生徒の育成をめざし，校長各位のリーダーシップにより，全教職員の共通理解に基づく指導体制のもと，学校運営に努力し，それぞれ成果をあげている。しかし，学校運営は決して平坦な道程ではなく，学校各位の苦心と心労を伴うものである。当面する諸問題，今後における課題等の検討，究明，対策に対処するためにも，各地区の中学校長会並びに県中学校長会の総力を結集すべき時であると思う。

本年度，本会の事業計画重点目標は，1. 会員の研修活動の推進，2. 教職員の人材確保対策の推進，3. 義務教育尊重の気風の高揚，4. 生徒の教育・福祉条件の充実促進である。これとともに，関ブロ栃木大会を明年に控えて，準備を進める年度である。

関ブロ大会を栃木県で開催するのは，５回目になるわけである。「中学校教育三十年（全日中編）」「栃木県中学校３０年誌（本会編）」その他によって，本県を開催地とする関ブロ大会について，ふりかえってみることにする。

昭和２３年に全日本中学校長協会が誕生し，昭和２４年，第１回関東甲信地区大会が日光湯元の南間ホテルにおいて開催され（本県１回目），各県の情報を交換し，中学校教育振興の方策を宣言決議している。翌昭和２５年に，「協会」は発展的解消，全日本中学校長会として発足している。日光にて大会開催のあと，伊香保，長瀞，大洗，甲府，長野，成田，箱根湯本と開催し，昭和３１年，新潟県の加入が決定する。

昭和３２年，第９回関東甲信越地区中学校長研究協議会，第１回関東甲信越地区中学校長会総会を，宇都宮市栃木会館において開催（本県２回目），その後，新潟，前橋，浦和，水戸，甲府，長野と年度を追って開催している。ここまでの大会内容，協議題は，前記二誌でも，現在の関ブロ中学校長会事務局でも，はっきりわからない。第１６回千葉大会から，全体協議題及び研究協議題は明確になっている（大会誌を印刷している）。

第１８回栃木大会（昭４１．６．宇都宮市）では，“いまの教育課程で効果を挙げ得ない理由はなにか”“改訂教育課程編成の基本方針はいかにあるべきか”などの研究協議題のほかに，年間配当時数，必修と選択，進学指導，クラブ活動，学校行事，学習負担の軽減と学習効果の高め方，小中高一貫の教育課程編成の考慮点などについて，協議題が設けられている（本県３回目）。その後，第１９回から第２６回までの大会では，新学習指導要領，新教育課程，豊かな人間の育成などの表現を，協議題にみることができる。

第２７回栃木大会（現職校長各位で，当時の大会誌をお持ちの方も多い）は，昭和５０年６月，宇都宮市で開催されている（本県４回目）。“現行教育課程の問題点とその改善策はいかにあるべきか”ほか８項の研究協議題が設定されている。その後，第２９回から第３４回大会まで，研究協議題の随所に「新教育課程」という表現がある。

明年，第３５回の研究協議会並びに第２７回の総会は，各県を開催地とするローテーション５回目のトップとして，栃木大会となる。そして，この大会では，「新教育課程」でなく「教育課程」となり，その充実を協議題に掲げるのである。教育課程を含む，本県中学校教育の真価を問うべきときである。本県中学校長各位の総力を結集して準備を進められることを，お願いする次第である。

第35回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会来年6月15日～17日開催に決まる

本年の神奈川大会につづいて，昭和58年度は栃木大会が，宇都宮を会場として開催されることとなりました。昨年度後半から，そのための準備にはいりましたが，本年度になって，準備委員会の組織・内容，予算，準備計画等も決まり，本格的に活動を開始しました。栃木大会では，神奈川大会の実績をふまえ，さらに研究を深め多くの成果を挙げるべく，各部とも着々と準備をすすめております。まず，研究部では，高柳部長を中心に全体協議題並びに分科会協議題等の案が作成され研究部会が数回開催され，また，その案が再度企画委員会で検討され，下記のような案ができあがったわけです。そして，去る7月9日～10日の関ブロ理事会で検討され，すべてが承認されました。

◇　全体会協議題並びに設定の趣旨

1　全体協議題

「人間性豊かな生徒の育成をめざす」

2　研究の視点

(1)　教育目標の具現化をはかる経営

(2)　学校教育の人間化をすすめる経営

◇　分科会協議題

1　第1分科会「教育課程の編成とその実践」

2　第2分科会「教育課程充実のための教育諸条件の整備」

3　第3分科会「学校教育と家庭および地域社会との効果的連携」

4　第4分科会「進路指導充実のための校内体制の確立，および保護者の啓発」

5　第5分科会「自己実現をめざす生徒指導」

6　第6分科会「人間性豊かな生徒の育成をめざす特別活動・部活動」

7　第7分科会「特殊教育の振興と充実」

8　第8分科会「教職員の資質の向上と教員養成上の諸問題

9　第9分科会「学校運営における校長のリーダーシップ」

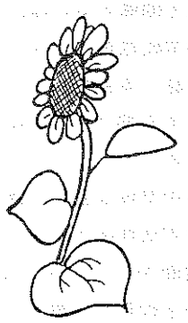
以上の協議題並びに研究の視点にしたがって，今後は各郡市ごとに研究が進められ，各都県の研究とともに，来年の研究大会には，各分科会でその発表が行われることになっております。

また，運営面を担当した宇河地区の校長会では全体会場，分科会場の確保，記念講演，大会誌の編集計画，会場設営計画，推進要項の作成など運営全般にわたって，着々とその準備をすすめております。

なお，運営面を担当する各部の代表は，去る7月26日（月）に横浜におもむき，大会運営等について細部にわたる研究を行ってまいりました。

神奈川県の校長会をはじめ，各都県の校長会の栃木大会に寄せる期待の大なるものを感じてまいりました。この栃木大会が成功するため，会員個々の意欲的な研究と，積極的なご協力をお願いする次第です。

（事務局長　高島守親）



第24回関東甲信越地区中学校長研究協議会に参加して

南那須町立下江川中学校長　高沼理夫

6月17，18日の両日，横浜市にある神奈川県民ホールにおいて，第24回関東甲信越地区中学校長研究協議会神奈川大会が開催されました。

以下に大会のあらましについて報告致します。

◇6月17日

まず，開会式にいろいろな方たちのご祝辞がありましたが，長洲神奈川県知事の「県内いたるところで騒然たる教育論議を」をスローガンとした，神奈川県の教育に対する姿勢には，眼を見張るものがありました。県下のいろいろな方たちからの教育に対する提言をまとめ，「神奈川県教育宣言」と，それを具体化した「教育計画」を確立するといった構想は，参会者の強い共感を呼びました。

また知事が紹介された，老牧師のポエム（下段参照）も深い感銘を与えたようでした。

続いて全体協議会が行われ，本県の足利市立北郷中学校長の時田先生が，「豊かな人間性をめざす教育目標とその具現化」と題して提案をされました。内容は，生涯教育の立場にたった市民参加による，足利市の教育目標の構想と，それとの関連をはかった学校教育目標のあるべき方向，及び具現化の方策などについて述べられたもので，豊富な資料をもとに，熱のこもった立派な発表は，同県人として誇らしく思われました。

午後は分科会協議があり，9分科会にわかれてそれぞれ中学校がかかえる重要な問題について，熱心な討議が行われました。

◇6月18日

大会第2日目は，音楽家高木東六さんの「教育とハーモニー」と題する記念講演がありました。音楽におけるハーモニーの大きな力をまざまざと感ずると共に，それを教育に生かすことの意味を深く考えさせられました。

「ただ　ただ　せつな
　　と　も　っ
　　は　の　や
　　た　な　ま
　　だ　の　し
　　み　光　い
　　り　あ　夕
　　ど　の　へ
　　り　祈　そ
　　の　母　し
　　愛　の　て
　　つ　さ　の
　　な　い　の
　　り　水　川
　　　　み　山
　　　　だ　の
　　　　た　ま
　　　　ち　ち
　　　　の　の
　　　　せ　陽
　　　　つ　な
　　　　な　神」

専門部の活動計画

◇　調　査　部

部　長　柳　田　　明（姿　川　中）
副部長　和　田　　実（古　里　中）
〃　　福　富　　弘（晃　陽　中）

A　主な事業計画

1　全日中調査部との共同調査である「中学校教育に関する調査」の実施

2　県中学校長会ならびに各専門部会活動に必要な調査と資料提供

3　他県中学校長会・教育団体との連けいと資料の交換

4　調査結果や収集資料の配布

B　中学校教育に関する調査

去る6月，各校悉皆による調査の積み上げと，県教委を始め関係機関からの資料収集の両面作業で，広範多項目にわたる調査票の記入を完了し，全日中に送付した。

近いうちに，全日中特報に載ることと思われます。

この調査に当って，特に県教委義務教育，高校教育，保健体育各課の関係の先生方に，絶大な御協力を賜ったこと，また，各校長ならびに各地区調査部員の御協力に対し，厚く感謝申し上げます。

なお，先年度と同様に，この調査の初回（昭48）と本年度との比較を行い参考に供したいと存じます。

比較項目		昭48.4.1	昭57.4.1
給料	初任給（大学卒）	51,900円	119,800円
	勤続10年	78,400	193,400
	勤続15年	94,800	238,700
	勤続20年	111,800	279,100
	勤続36年（校長）	146,400	374,900
旅費（1人当　年間）		24,100円	66,300円
校長待職年令（勧奨）		58才	60才
生徒数		78,836人	84,296人
教員数（校長教頭教諭養護教諭等）		3,588人	4,029人

◇ 研　修　部

部　長　高　柳　　久（宝　木　中）
副部長　宮　沢　正　夫（鹿沼北中）
〃　　新　井　角　治（赤　見　中）

1　昭和５７年６月３日，旭中学校で専門部会を開催し，今年度の研修部会の役員，および年間事業計画について協議しました。

◇　事業計画および研究のすすめ方について

ア　研究部会の開催について

６月２８日（月）　旭中学校で研修部会を開催し，関ブロ栃木大会の全体会，分科会の協議題，協議題設定の趣旨と研究の視点について協議する。

イ　９月１０日（金）　宇都宮市立旭中学校にて栃木県中学校長会研究大会を開催する。

ウ　昭和５８年２月に，研究紀要を編集し発行する。

2　関ブロ栃木大会について

昭和５８年度に第３５回関東甲信越地区中学校長研究協議会栃木大会を宇都宮市文化会館を中心に開催予定となっています。

現在研修部としては，関ブロ理事会へ，大会の研究主題・全体会ならびに分科会の研究協議題・協議題の設定の趣旨，ならびに研究の視点を下記のとおり作成し提出しました。

(1)　全体会協議題（案）

「人間性豊かな生徒の育成をめざす教育課程の充実」

(2)　趣旨

今日，教育に対する国民の関心は非常に高く，かつ教育に対する要請と期待は著しく増大してきている。

このような要請と期待にこたえるための新教育課程の実施３年目を迎えた学校では，ゆとりある，しかも充実した学校生活を実現し，ひとりひとりの能力・適性に応じた教育活動を展開し，人間性豊かな創造力に富む心身ともに健全な活力のある生徒の育成をめざしている。

このときにあたり，学校経営の責任者である校長は，教育の「質的」充実に対応すべく，当面する諸問題と今後における教育の課題について検討究明して，中学校教育の充実発展に努めるようにする。

(3)　研究の視点

ア　教育目標の具現化をはかる経営

イ　学校教育の人間化をすすめる経営

(4)　分科会協議題と研究の視点（案）

第１分科会　教育課程の編成とその実践

研究の視点

ア　ゆとりある，しかも充実した教育活動のあり方とその実践

イ　地域ならびに生徒の実態を生かした，教育課程の編成とその運営

第２分科会　教育課程充実のための教育諸条件の整備

研究の視点

ア　教職員構成上の諸問題と校務運営のあり方

イ　教育課程充実のための施設設備の整備と活用

第３分科会　学校教育と家庭および地域社会との効果的連携

研究の視点

ア　学校教育と家庭との効果的連携

イ　学校教育と地域社会との効果的連携

第４分科会　進路指導の充実のための校内体制の確立，および保護者の啓発

研究の視点

ア　進路指導充実のための校内体制の確立

イ　進路指導充実のための保護者の啓発

第５分科会　自己実現をめざす生徒指導

研究の視点

ア　生徒指導の現状とその改善

イ　ひとりひとりの生徒理解に基づく生徒指導のあり方

第６分科会　人間性豊かな生徒の育成をめざす特別活動・部活動

研究の視点

ア　特別活動の本質をみつめた教育実践の探究

イ　部活動の内容の充実と教育課程運営との調和

第７分科会　特殊教育の振興と充実

研究の視点

ア　特殊学級生徒の進路指導

イ　特殊学級運営上の問題点と学校体制

第８分科会　教職員の資質の向上と教員養成上の諸問題

研究の視点

ア　教職員の専門性を高める現職教育のあり方

イ　教員養成制度や教育実習の現状と課題

第９分科会　学校運営における校長のリーダーシップ

研究の視点

ア　校長の専門性と指導性

イ　教職員の職務意識を高める校長のリーダーシップ

以上の通り全体会協議題・分科会協議題ならびに研究の視点を提出しましたが，これらが正式に決まるのは９月以降かと思われます。

各地区にお願いした研究題について，研修を深めていただきたいと思います。

◇ 進路対策部

部　長　稲　葉　乙　彦（小山三中）
副部長　大　沢　瀧　雄（氏　家　中）
〃　　尾　花　　悟（佐野西中）

進路対策部会では，中学校の進路指導と高校入試の問題について研究協議等を進めているが，最近，県立高校入試の期日について，いろいろな意見が出されているため，進路対策部員が中心になり，高校入試期日についてアンケートを行った。

このアンケートは，①現行の高校入試合格者発表の前日に，中学校の卒業式を行うことの長所・短所について，②高校入試及び合格者発表期日と中学校の卒業式の日取りをどうきめたらよいか，の二つについて行った。①は長所・短所について五つずつの選択肢を設け，それぞれ二つずつを選択させる方法を，また②は自由記入とした。調査人数は校長・教頭115名，教諭611名である。

	設問要旨（第５問省略）	校長教頭	教諭
長所	ア卒業生が快く卒業式に臨める	100人	441人
	イ不合格者が級友に気まずい思いをしなくてすむ	81人	375人
	ウ卒業式等最後まで緊張できる	69人	344人
	エ卒業前の生徒指導等が容易	14人	82人
短所	ア卒業式等にゆとりがもてない	78人	333人
	イ不合格者の事後指導が不十分	50人	320人
	ウ最終進路決定の喜び悲しみを学級全員で語り合えない	31人	222人
	エ不合格者を学級全員で慰め励ます機会がもてない	20人	118人

②については，現状でよいが校長教頭７５人，教諭255人で最も多く，入試期日を早めるが７人１３人，卒業式前に合格者発表をが教諭２０人などと目立った回答で，他は僅少であった。

なお，進路対策部会では，このアンケートを資料にして，７月１５日に県教委の助言を得ながら部会を開いた。上記の問題と調査書における選択教科の取扱いが中心の協議題となったが，紙面の都合上，詳細は次号で報告したい。

◇ 修学旅行部

部　長　片　山　悦　男（瑞穂野中）
副部長　玉　野　安　一（小山二中）
〃　室　田　広　三（足利西中）

望ましい修学旅行を求めて

1　修学旅行委員会のはたらき

中学校における修学旅行も定着し，学校行事としての価値も充分認識されている今日かと思います。教育・経済・安全の面より関東地区５県（栃木・茨城・群馬・埼玉・千葉）が関東地区修学旅行委員会を組織し，関係機関に接衝をしているのが現状であります。

2　修学旅行の望ましいあり方

指導要領に即応する望ましい修学旅行のあり方は如何にあるべきか，関修委主催での研究集会が毎年行われています。本年度は２月に千葉市で開かれる予定です。生徒の自主性を尊重することは当然ではありますが幾多の困難点もありますので今後に課せられた大きな課題かと思います。

3　輸送計画について

昭和５９年度の申し込みをいただきました。９月に関修委の委員会で輸送の割りつけが行われ委員会を経て各校に渡されるものと思います。本年度の利用校は128校，25,155 名です。

4　東北方面の修学旅行について

昭和５９年度より新幹線を利用しての東北方面の旅行ができるようになり，その希望をあわせて調査いたしましたが今年度は残念ながら一校もありませんでした。また現地視察研修も予定されておりますので今後の研究をいただければと思います。現に東北方面に出かけられている学校もあるように聞いておりますが特急料金が半額引きになる半面，期日が指定されるのでご不便なこともあるかと思います。

◇ 福利厚生部

部　長　川　島　平八郎（星が丘中）
副部長　大　島　嘉　一（本　郷　中）
〃　塩　井　貞　次（船　生　中）

1　部会の組織ならびに方針

去る６月３日の部会総会において，次のとおり部会の組織ならびに方針が決定しました。組織は上記のとおりです。

ついで協議に入り，いろいろと新しい事業を採り入れたらという意見もありましたが，来年の関ブロ栃木大会にそなえて，従前どおりの事業をやっていこうということに決まりました。

2　計画

９月３日・４日，藤原町において，生徒手帳の編集。

１０月２６日，星が丘中において，中学生の安全の編集。

２月５日，星が丘中において，新しい道の編集年間の反省と次年度の計画立案。

3　感想

昨年は皆さんの御協力により３１万円余りの事業益金を，中学校長会の会計に納入することができました。ありがとうございます。しかしながら，採用校をみますと，生徒手帳で100校，中学生の安全で５０校，新しい道で７０校前後とまだまだ活用していただく余地がたくさんあります。来年の関ブロ栃木大会のためにも大いに採用して下さるようお願いいたします。

下都賀郡中学校長会の活動状況

藤岡一中　大阿久　薫　雄

ご承知のように昭和５８年関ブロ中学校長会開催準備の一環として各地区の研修活動が続けられていると思いますが，本地区においてもそれを志向して研修を進めております。

テーマを「特別活動・部活動について」と焦点化しました。特別活動は，生徒の自主的な実践活動を通じて，「自ら考え正しく判断し，かつ実践力を培う」重要な教育の分野であり，豊かな人間性をめざす教育課程の中で，特に重視されなければならない。このような観点に立って特別活動・部活動の現状を重視し，いっそうの充実を図りたいということで視点を次の二点にしぼり，各校の実態や構想などを持ち寄って段階的に研究の推進に努めています。

＜視　点＞

(1)　特別活動の基本に戻り，教育実践の在り方を探究する。

(2)　部活動の内容の充実と教育課程との調和をいかに図るべきか。

今後の予想される研究の内容としては次のようなことが考えられます。

(1)については，

①　教職員の教育力を高めるための方策。

②　教育目標と特別活動の関連づけ。

③　生徒の自主的な実践活動への援助指導。

(2)については，

①　部活動と知的学力は両立しているか。

②　部活動と各教科，各領域との関連づけ。

③　部活動と教育課程の調和をどう図るか。

④　部活動指導の充実と実施上の問題点。

テーマに沿った研修は年間７回，時間も思うようにはとれませんが，何とか深めていこうという意欲は十分感じられます。そして，休憩時間や昼食をとりながらのホンネを出し合っての雑談が，孤独を余儀なくされている我々に，強い連帯の絆を感じさせ，新しい勇気を振起させてくれる得難い機会になっています。

那須地区中学校長会の活動状況

那須中　田　代　好　夫

本地区の校長会は小中学校一体となって組織されており，その中で小中学校の各部会に分れている。本年度の会報では本地区２４校で組織されている中学校部会の運営方針や，重点目標は紙面の割当内でお知らせいたします。

A　運営の方針（前文省略，内容の一部も略す）

1.　郷土の特色を生かし，人間性豊かな人格形成に努める。

(1)　豊かな知性の開発と伸長に努める。

(2)　郷土の自然や伝統を生かした情操の育成。

(3)　たくましい体力と気力の育成をすすめる。

2.　義務教育尊重の気風を高揚する。

(1)　教職員の一体感に根ざし，那須の教育水準を高める。

(2)　児童生徒がよりよく育つ環境をつくる。

(3)　教育を支える人的，物的条件の整備と改善を促進する。

3.　本会の充実発展を図り，その主体的活動を活発にする。

(1)　学校経営責任者としての権威を高める。

(2)　研修体制を確立し，専門職としての活動を活発にする。

(3)　教育諸団体の核となり，指導性を発揮。

B　５７年度の重点目標（紙面の都合で要点のみ）

1.　研修活動の推進

(1)　教育課程の研究実践。(2)　学校経営の諸問題。(3)　研修課題の研究。

2.　対策活動の推進

(1)　教職員の適正配置と勤務条件の改善。

(2)　教育予算の増額と，教育機器器材充実。

(3)　対外活動・出場補助金の増額。

(4)　研究学校・研究大会への協力。

3.　児童生徒の健全育成

(1)　社会環境浄化と指導体制の確立。

(2)　校外活動のための施設設備の拡充。

以上の方針・目標を基盤として，例年通りの，研修事業や行事計立が推進される。

栃木市校長会活動状況

栃木市校長会長　金　田　英　一

栃木市校長会は小中一体となっての組織で，全体研修，班別研修にわけて活動している。本年は児童，生徒指導に焦点をあて，我々が教育（学校・家庭・社会）において見落しているものは何か，教師がなさねばならぬことは等を中心に，直接子供達とかかわりある教師の日常の指導の中にある問題点をさぐり，今後の指導に役立てて行きたいと考え計画をすすめている。研修の主なものは，下記の通りである。

1. 研修テーマ

　豊かな人間性を育成する教育実践

　―ひとりひとりを生かす児童・生徒指導―

2. 研修内容

学校経営全般（教科・領域・その他）にわたり，日々の児童，生徒の姿，教師とのかかわり合いをまず見直しひとりひとりが真に生かされているか否かを考え確める。又その途上において校長・教員の正しい教育観を確立していく。

3. 研究計画と内容

5／4	研修計画の立案，検討
5／21	全体会　ブロック別研修
6／4	全体会　ブロック別研修
6／25	県外校調査（郡山市立第五中）
8／20	全体会　ブロック別研修
10/7～9	県外校調査
10/21～23	小・中にわかれて
11／25	全体会　ブロック別研修

ブロック別研修は２３校を４班に分けそれぞれ研修サブテーマをきめ研究を推進する。

- 第一班　ひとりひとりを生かす授業の在り方
- 第二班　ひとりひとりを生かす児童生徒への接し方
- 第三.四班　ひとりひとりを生かす非行の指導

これらの研修を通し各校の情報を交換しあうことにより，各学校における児童・生徒指導が益々充実していくことを期待している。

上都賀地区中学校長会運営状況

上都賀地区中学校長会長
赤羽根　雄　太

◉ 抱負及び活動方針

日本をとりまく環境は厳しさを加え，学校教育に対する期待要望も一段と強まってきている。一方学校では，学習指導・生徒指導はじめ学校経営上の諸問題が山積し，校長は勿論，校長会の資料の向上や団結がこれまで以上に求められている。

そのためには

1　来年度の関ブロ栃木大会成功のため，組織を挙げて二つの分科会提案の準備を進める。

- 分科会別推進委員会を組織し，研究推進を図る。
- 分科会・全体会で煮つめ充実を図る。

2　学校経営上の諸問題と対策等の研究討議を行う。

3　常時，全員校長会参加を目標とし，より結束をはかる。

◉ 年間研修計画（理事会，研修部会は略）

- ４月１７日　総会
- ６月２５日～２６日　宿泊研修
  関ブロ栃木大会分科会提案議題の検討および推進策
- １０月１２日　研修会
  研究推進委員会の提案検討
- １１月２３日～２５日　県外先進地校研修視察
- ２月２５日～２６日　宿泊研修
  関ブロ栃木大会研究推進の反省と次年度への準備について
  ５７年度校長会の活動と運営についての反省と次年度への対策について

芳賀郡市中学校長会

1. 会の組織

◦ 会長	大倉利明	（山前中）
◦ 副会長	藤間欣二郎	（茂木中）
◦ 〃	高橋市郎	（中村中）
◦ 監事	海老沢政二	（須藤中）
◦ 〃	宮田一男	（真岡東中）
◦ 理事	宮田一男	（真岡東中）
◦ 〃	柳田　馨	（久下田中）
◦ 〃	石川和助	（田野中）
◦ 〃	海老沢政二	（須藤中）
◦ 〃	小森三子	（市貝中）
◦ 〃	河原　栄	（芳賀中）
◦ 幹事	沢村光明	（中川中）
◦ 〃	梁木周光	（大内中）

2. 本年度の研究について

ア　研究主題

「自己実現を目ざす生徒指導」

イ　趣旨

いかなる生徒にも必ず存在している自己実現へ向けての欲求が，いろいろな条件によって阻止されたり歪められたりしている。

そういう現状を直視し改善するために，生徒一人一人の様々な可能性と潜在的能力を発見し，それらを生かし伸ばすためのより深い生徒理解の方策を究明したい。

ウ　研究の視点

生徒指導の現状とその改善

エ　研究の進め方

- 年間６～７回の研究会を持ち各々資料を出し合って研究を推進する。
- 研究指定を受けている芳賀地区児童生徒指導研究協議会との連けいをとりながら進める。

会　員　の　声

生き生きとした小山の教育

一昨年度に，学年進行型開校となり，新一年生のみで出発した小山三中も，本年度は，いよいよ二学年編成の充実した新設校となり，市内９校の足並みも揃い，志気が高まりました。

ご存じのように，小山市は，人口１３万の急増地帯となり，都市化の激しい，転出入生徒の多い新開地であります。郷土愛，連帯感溢れる市の目標にしたがい，各教職員の愛情は教育ひとすじに専心して，地域に根ざした，地域の教育センターとしての役割りも果せるよう，独自の主体的，創造的な学校経営に役立てようと，市校長会の小，中，高連携は勿論のこと，各分野での教育研究活動並びに情報交換も活発に続けられております。

本年度の中学校長部会は，第３５回関ブロ中学校長研究協議会栃木大会との関連をはかり，“生き生きとした学校経営をめざす主任のあり方”についてをテーマとして，その生き生きとした学校運営をすすめるために，主任が学校組織の中核となって各教職員の資質を高め，学校をより生き生きとした組織に向上させることや，そのような主任に育てることが，学校長の重要な役割りでもあるため，その問題点の解明，経営上の改善策の究明にあたってまいりました。

生き生きとした学校運営への参加にとって，一人ひとりの教職員のアンケートは，“やる気を起すとき”“やる気を失い易いときは”など，市内全教職員にわたっての協力を得て進めてまいり，そのまとめを８月に予定していたのでした。

今般，関ブロ理事会における，栃木大会内容についての協議の際に，他県からの意見と要望とにより，急遽上記テーマの変更希望がある旨の連絡を受けた本市校長会は暫し，唖然としましたが，緊急に巻島会長並びに研修部長殿を迎えて話し合った結果，関ブロ理事会の要望通り，お受けすることになりました。８月からの市校長研修会は，特殊教育の振興と充実という新たな協議題をかかげて再出発することになり，各校長は，今やその準備をはじめたところであります。　（半田記）

菊作りの中から

烏山町立境中学校　吉　村　　正

今年は空梅雨とか，苗を育てるには例年以上の努力を重ねてきたことだろうな，などとなれた手つきで大菊の定植作業を進めていく生徒や先生方の間にまじってうろうろと菊作りの学習をしました。

菊作りがどのような過程を経て日本人の心に定着し育っていったか，また，菊作りの技法のいろいろなど，生来，花弁の栽培や盆栽をたのしむ道などには疎い私には理解のとどかぬところですが指導の先生の言によれば，秋に咲く花の姿を想いえがきながらの，誘引，支柱立て，芽摘み，水やり等々，尽きせぬ楽しみがあり，人それぞれに家伝があり秘術があるとか，道の奥は深く果てしないようです。

誘引するときには，どの枝を伸ばそうか，苗の姿をよく見きわめ，不用な枝を切り取り，枝に様子をききながらじっくりとたわめていく。初心者が失敗するのは，ここで，菊にきく心を忘れ，自分の心だけで曲げてしまうからポキッと折れてしまうとか。指導の先生の説明をききながら，菊作りと人間の育成を同列に考えることはできないが共通するものがあるような気がしました。

伸ばそうとする枝をみつけること。私などは，ともすれば，切り取ることにのみ心が動き，伸ばす枝や芽を先にみつけることを忘れていたり。

菊にききながら枝を誘引する。生徒の心を忘れた生徒指導が成立しないことを十分に分かっているつもりではあるが，つい指導者の思いどおりにしようとして失敗した。こんな体験を繰り返してきた身には，あらためて，指導者の心構えを教わるようでした。

大鉢にあげ終えた苗をみながら，これから秋まで生徒達は菊と共にどのように育っていくことかよい芽をみつけること，菊にきくことを心にきかせながら，しんまい校長もまた，水やりにせいをだしていこうと考えています。

研修と学校経営の充実を

塩谷地区中学校長会

本地区校長会では，来年度の関ブロ栃木大会での全体協議題の提案を受け持つことになったので，本年度の研修テーマを次のように設定した。

研修目標　人間性豊かな生徒の育成を目指す中学校教育の充実

重点目標　(1)　学習指導の充実

　　(2)　生徒指導の強化

研修の内容・方法については，関ブロ栃木大会に向けて，県中学校長会や関ブロ理事会等の研究方向の推移に合わせながら研究を進めていくこととしている。

現在までの研究状況は，全体協議題の趣旨および視点をどのように設定するか，また，教育目標の具現化を更に推進するための諸方策，教育の人間化への努力をどのようにすすめるかについて，互いに意見を出し合いながらの研修をすすめてきた。しかし，関ブロ理事会の決定も見ないので，焦点化した研究は今後になる。

本年度の研修は年間七回の予定である。その研修も，諸連絡，情報交換などと併せて行うことにし，共通理解を基盤に会の運営を図っている。

更に，年々出張，研修その他の用務が増え，ともすれば校長不在，教師不在の傾向があるので，校長自ら姿勢を正す意味でも，できる限り出張用務の削減を図っている。

本地区では三年ほど前から，教育関係諸団体と相提携して，行事の削減，組織の合理化などを提唱してきているが，本年度も，諸行事等調整についての話し合いをもち，授業時数の質的確保，学校運営の充実化を期すことにしている。

いまや，中学校教育についての関心が高まり，教育への要請と期待が増大している中で，教育を原点から見直す時期にも来ているように思える。

本地区校長会は，互いに協調し，より連携を深めながら学校経営の充実を期すことに怒力している。